

Economic Indicators

発表日: 2023年6月30日(金)

主要経済指標予定(2023年7月3日~7月7日)

(株)第一生命経済研究所 経済調査部
日本経済短期チーム (TEL: 03-5221-4525)

(7月3日~7月7日の主なイベント、指標予定)

	指標名	当社予測	市場予測	市場予測レンジ	前回結果	
7月3日 (月)	8:50 6月日銀短観 業況判断DI・大企業製造業(最近) (先行き)	2 3	3 5	1~6 1~9	+1 +3	
	大企業非製造業(最近) (先行き)	23 21	22 21	21~26 18~23	+20 +15	
	7月4日 (火)	8:50 6月マネタリーベース (前年比)	—	—	—	▲1.1%
	8:50 6月短観業種別計数及び調査全容					
7月5日 (水)						
7月6日 (木)						
7月7日 (金)	8:30 5月毎月勤労統計 名目賃金(前年比)	—	—	—	+0.8%	
	8:30 5月家計調査(二人以上の世帯) 実質消費支出・全世帯(前年比)	▲1.5%	▲1.9%	▲3.2%~+0.9%	▲4.4%	
	実質消費支出・勤労者世帯(前年比)	▲2.3%	▲2.5%	▲4.6%~▲1.0%	▲6.7%	
	8:30 5月家計消費状況調査					
	8:30 5月家計消費単身モニター					
	8:30 5月消費動向指数					
	14:00 5月消費活動指数(旅行収支調整済) 実質季節調整済み(前月比)	—	—	—	+0.1%	
	14:00 5月景気動向指数・速報 CI先行指数(前月差)	+1.5pt	+0.9pt	+0.8pt~+1.3pt	0.0pt	
	CI一致指数(前月差)	▲0.3pt	▲0.3pt	▲0.4pt~▲0.2pt	+0.1pt	

(注) 市場予測・レンジは Bloomberg、日経 QUICK 調査をベースに作成

日銀短観6月調査 業況判断DI・大企業製造業（最近） 当社予想：2 中央値：3

日銀短観の6月調査では、大企業・製造業の業況判断DIが前回比+1ポイントの改善になると予想される。自動車の半導体不足が改善するせいだ。6月調査では、価格判断DIの変化も注目される。これは、植田総裁が2023年度の物価見通しを考える際の材料になるだろう。

（首席エコノミスト：熊野 英生）

5月実質消費支出（二人以上の世帯、全世帯） 当社予想：前年比▲1.5% 中央値：同▲1.9%

実質消費支出は前年比▲1.5%と予想。3ヶ月連続のマイナスだが、前月比では増加が見込まれる。新型コロナウイルスに対する警戒感は和らいでおり、人々の外出抑制姿勢は弱まっている。サービスを中心として個人消費は持ち直した可能性が高い。

（シニアエグゼクティブエコノミスト：新家 義貴）

5月景気動向指数 CI先行指数／CI一致指数 当社予想：前月差+1.5pt／▲0.3pt 中央値：同+0.9pt／▲0.3pt

CI一致指数を前月差▲0.3ポイントと予想する。内訳では、鉱工業生産指数や生産財出荷指数、輸出数量指数など、輸出、生産関連系列が押し下げ要因となる見込み。昨年夏以降、CI一致指数は均してみればほぼ横ばいの動きが続いている状況に変化はみられない。

なお、5月のCI一致指数の基調判断は4月に続いて「改善」が予想される。

（シニアエグゼクティブエコノミスト：新家 義貴）

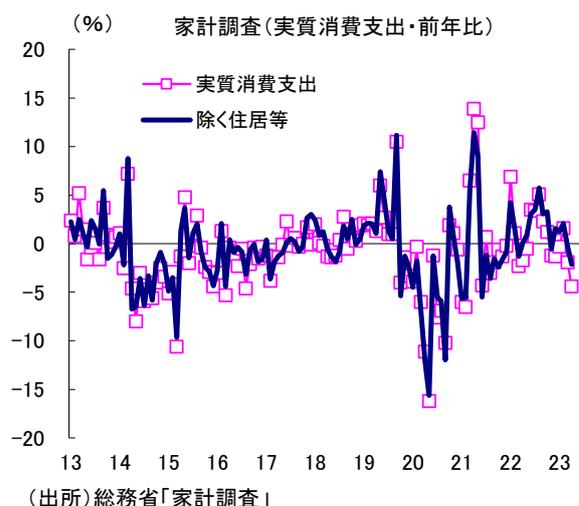
図表1

(図表1) 日銀短観の予測値(2023年6月調査)

		業況判断DI				
		大企業		中小企業		
		製造業	非製造業	製造業	非製造業	
2021年	3月調査	5	▲1	▲13	▲11	
	6月調査	14	1	▲7	▲9	
	9月調査	18	2	▲3	▲10	
	12月調査	18	9	▲1	▲4	
2022年	3月調査	14	9	▲4	▲6	
	6月調査	9	13	▲4	▲1	
	9月調査	8	14	▲4	2	
	12月調査	7	19	▲2	6	
2023年	3月調査	1	20	▲6	8	
	6月調査	2	23	▲4	10	予測値
	先行き	3	21	▲5	5	予測値

出所:実績は日本銀行 予測値は第一生命経済研究所。

図表2



図表3



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。